

港、大矢野の島山影を、眼下に見下す景勝の地だ。一万三〇〇〇平方尺の敷地には、近く子供たちが楽しめる遊園地が作られる予定であるが、崖沿いの部分はずでに園地化され、遊歩道や休憩施設が設置される。また、広場の一角には、ヘリポートも設置され、天草五橋をめぐり一〇分間の遊覧飛行を、楽しむことができる。

広場の山沿いの道は、磯山をめぐって三角港と駐車場を結ぶ迂回道路であり、三角港への近道である。この道をへだてて、広場のすぐ上にそびえる小高い丘の頂上には、高さ一〇〇尺のタワーが、四十二年の夏までに立つことになっており、山の高さと合わせて、海拔一五五尺の海の展望を楽しめるようになる。

また、ホテルの下の棧橋からは、五橋めぐりの遊覧船が発着し、棧橋のたもとから、橋の下を通過する向うの岩場まで、海岸沿いに遊歩道が作られ、自然の釣場やモーターボートの基地ができる予定である。そのほか、ホテルに附属するプールや、町が計画している磯山全体の園地化など、ここのは、天草パールラインの門戸を占める観光の集中地区である。

#### 花咲く大矢野島

普通の乗用車ならば、トルゲートで一部線料金二〇〇円を払うと、すぐ天門橋を渡ることができる。橋を渡ると、そこは天草諸島のうちで、三番目に大きい大矢野島である。

道は、橋を渡ったところから大きく右に迂回し、そこにも三、二六〇平方尺の県営の展望広場がある。駐車場を車を降りると、いま渡ってきた天門橋を、北側から眺めることができる。

そこから車は、切り立った崖の上を走り、本村橋、岩谷橋を渡る。さらに、湾入した海沿いの道を、大きく左に迂回し、やがて車は、岩谷の部落を経て、島の内陸部にすすむ。この二つの橋は、国道に架けられた公共事業の橋であり、天草五橋ではない。

大矢野島は、三〇平方尺あまりのかなり大きい島である。しかし、全体がなだらかな丘陵から成り、山らしい山は、いま迂回してきた飛岳と、入江をへだてて飛岳と向い合っている大雲山だけで、見るべき川もない。

大雲山は、もと柴尾山と呼ばれていたが、三十八年、標高二二五尺の山頂に、高さ一二尺の展望塔ができてから、大矢野の「大」と雲仙の「雲」を取って、大雲山と改められた。この山に登ると、広々とした有明海と雲仙岳がよく見える。また、大矢野島全島を見渡すことができ

しかし現在は、麓から八〇〇尺の山道が通じているだけで、車は登れない。町では、自衛隊の協力を得て、幅員五尺の登山道路を建設しており、四十二年の秋には完成する。これと併行して、山頂一帯の園地化と、駐車場の新設もすすめら

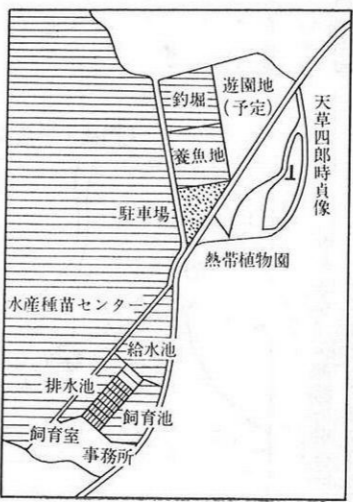


大矢野の花栽培……

れている。

大矢野島は、真冬の花づくりに有名である。菊、矢車草、アイリス、色とりどりの花が、段々畑の斜面をおおい、季節は秋から春に移る。大矢野の花の出荷は、十二月から翌年四月までが勝負である。切花にして、北九州、関西方面へ出荷され、年間四、〇〇〇万円近くの収益をあげている。

宮津海浜公園

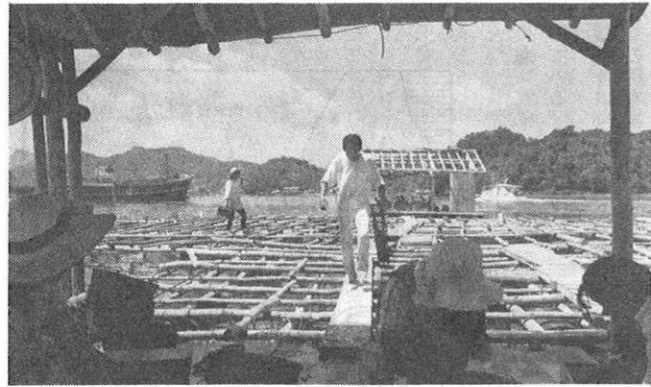


大雲山の麓の東満地区は、この花づく

りの中心地である。二月の末、九州全土が大陸からの暖い移動性高気圧におおわれるころ、大雲山に登ると、眼下に花の絨繖模様を見ることができらる。

#### 天草四郎時貞

車はほどなく、大矢野島の中心登立の町を過ぎ、立派に舗装された平坦な道を走り、やがて宮津の海浜公園につく。まず、コス、ピロー、フェニックス、ワシントンニア、シユロなどの亜熱帯樹が、道路沿いに列柱をつくり、海からの微風にさやいでいるのが見える。道路の左側は、町立の熱帯植物園である。九、〇〇〇平方尺の敷地に、三棟の大温室が建っているが、まだ内部は未完成で、開園は来年四月の予定である。植物園の奥は、



真珠の養殖風景……

キリスト殉難図を思わせる切立った崖になつており、丘の上に、天草四郎時貞像が陽光に胸の十字架を輝かせながら、右手で高く天を指さす姿で立っている。ここ中村の地は、寛永十四年十月、南海の美少年四郎時貞が、キリシタン殉教戦の最初の旗を挙げたところと信ぜられているのである。島原の一揆に呼応して立った天草の軍は、まず大矢野に起こり、大挙して天草上島に渡ったと言われている。

この間に、天草四郎は、一揆軍の総大将を迎えられ、島原に渡っていたが、天草の情勢が急を告げるに及び、急遽天草に帰り、領主寺沢志摩守が派遣した唐津の軍と、上島の島子において第一回の遭遇戦を展開した。十一月十四日未明のことである。一揆勢は、ここで唐津の兵を破り、さらに下島の本戸城下に進出して、激戦を繰りかえした。

いまも本渡市の中央を流れる町山口川は、両軍の流す血潮で、真っ赤に染まったといわれている。唐津の部隊は、一揆勢の猛攻によって総くずれとなり、総大将三宅藤兵衛も乱戦の中で力つき、自害して果てた。

車はすでに、天門橋から約一二里、公共事業によって、県が整備した道路を走

四郎時貞は、さらに現在の五和町二江の地に本陣をすすめ、富岡城に立て籠った唐津の軍を囲む一揆勢を指揮したが、富岡城の守りは固く、一揆軍も大きな痛手をこうむった。そのため一揆勢は遂に攻城を断念し、十一月二十五、六日ごろまでには、四郎を頭とする天草のキリシタンは、ことごとく島原に渡ったという。

原城の攻防戦については、よく知られている。島原南有馬の原城に立て籠った一揆軍は、三万七、〇〇〇人、このうち天草勢は一万四、〇〇〇人と伝えられている。寄せ手の軍は総勢一二万人、十二月十日からはじまった攻城戦は壮絶を極め、幕府の征討將軍板倉重昌を戦死させた。

一揆勢は、それから三カ月のあいだ、城を持ちこたえた。しかし、援軍もない海辺の孤城は、次第に糧食も尽き、矢弾も絶え、遂に寛永十五年の二月二十八日に落城したのである。総大将天草四郎をはじめ、一揆勢はことごとく討死し、四カ月にわたる島原の乱は終りを告げた。

#### 栽培漁業の基地

宮津の埋立地に続いて、県営の水産種苗センターがある。八、八〇〇万円の工

費をかけて四十年の四月に完成した。

三万六、五〇〇平方尺の敷地には、八二の屋外飼育池と給排水池、飼料培養室、ふ化飼育室、屋内ふ化飼育池、海草培養室などが立ち並び、九州ではここだけ、全国でも二番目の規模を誇る優秀な施設である。この施設を使って、センターでは現在、車エビとワカメの種苗の生産と配布を行なっているが、将来は、ハマチ、アワビ、カニ、タコ、イカなどの研究も行なう予定である。

熊本の車エビは、「肥後エビ」の名で知られている。東京市場の七割、全国市場の六割以上を占める有利な特産品である。大矢野町の千束蔵々島を中心に、三五の蓄養場があり、従来は、天然の稚エビを放流して一四二〇号程度の大きさまで蓄養し、出荷していた。それが、種苗センターの完成によって、人工的にふ化育成された稚エビを、大量に供給できるようになり、栽培漁業の花形として、将来が期待されている。

宮津から江後の部落を過ぎて、さらに南へ進むと車はほどなく、ゆるやかな坂を越える。この坂の左側の丘が、大矢野ゴルフ場である。

## 海に映える虹の橋々

ってきた。やがて、第二のトルゲートが行手に見えてくる。

ここは、大矢野島の最南端であり、満越瀬戸をへだてて、対岸の松島町永浦島